■（８７）未来がわかれば備えも十分、だから「票読み」

消費税の増税をめぐり、採決で民主党の「造反」が何人であるか、について各新聞・テレビが事前の予想を記事やニュースにした。賛成ならば白札を、反対ならば青札を投じるので議場ですぐに数えられる。新聞やテレビのカメラは投票の瞬間をアップで撮り続けた。

採決や投票の行方を事前に探るのを「票読み」と呼ぶ。各陣営が、投票者の動向や所属団体や支援組織の動きを見ながら予想する。勝つためには最後にどこに力を注いだらいいかを見極めようとする。記者も同じ作業をする。後で結果がわかるのになぜか。先行きを見通せれば、事前にたっぷり取材でき、記事に深みが出せるからだ。学校の試験で言えば、問題の傾向を試験前につかめれば、十分に対策がとれ、いい成績が残せるということになる。今回の採決で大量の造反が出ると予想した各社は、入念な準備をしていたはずだ。

記者経験が浅いころ、ある市長選の行方を見誤ったことがある。経験豊かな先輩の助力で記事は書けたものの、反省材料がたっぷり。今も「心の傷」として残っている。

（山）